

WEB基礎演習

第2回

2020年10月2日(金)

- ・ソーシャルディスタンスを保とう(できるだけ1席ずつあける)
- ・必携PCを使いましょう
- ・もし忘れた場合→181教室でのログイン

2限のユーザ名: WebPro4_1kumi

3限のユーザ名: WebPro4_2kumi

パスワード: kudo

Today's Agenda

本日の内容

- **小テスト**: Web技術の基本用語
 - タグの**基本形態**
 - HTMLの**基本タグ**
 - コメントタグ `<!-- コメント -->`, HTMLのバージョン定義 `!doctype`
 - `html`, `head`, `body`
 - **head内**に書きこむタグ
 - `meta charset`, `title`
 - **body内**に書きこむタグ (コンテンツ部分)
 - `h1` ~ `h6`, `p`, `a href`, `img`
-

まずHTMLファイルを作ろう

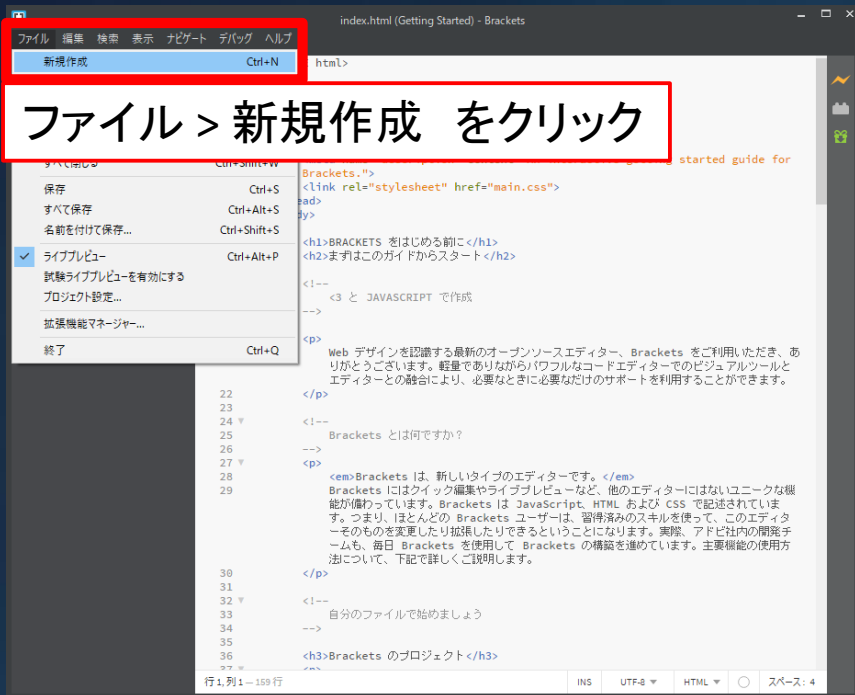
Brackets



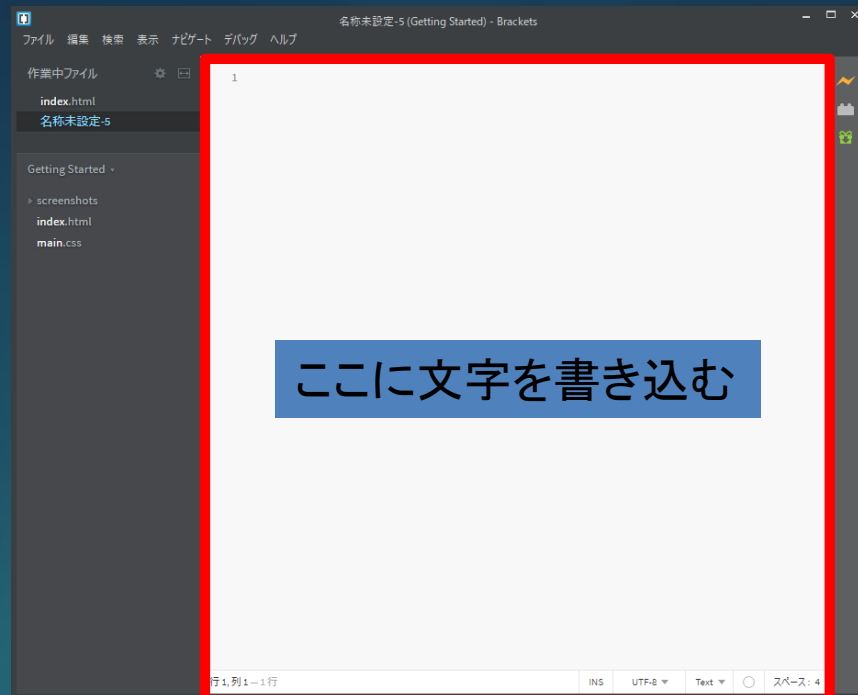
左下のスタートメニュー（Bのどこ）から起動しよう

HTMLファイルを作ろう

1. 編集ファイルの新規作成



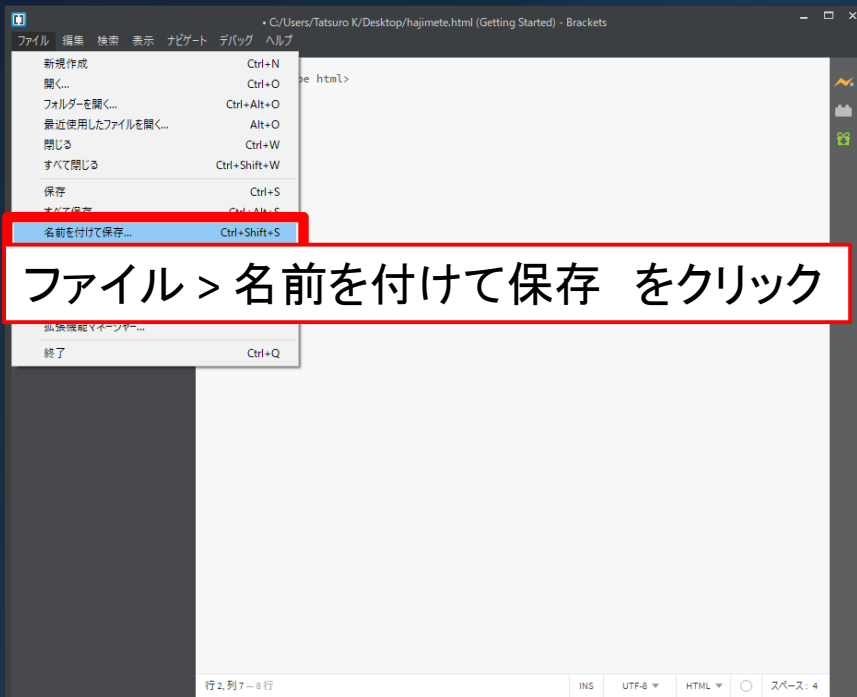
ファイル > 新規作成 をクリック



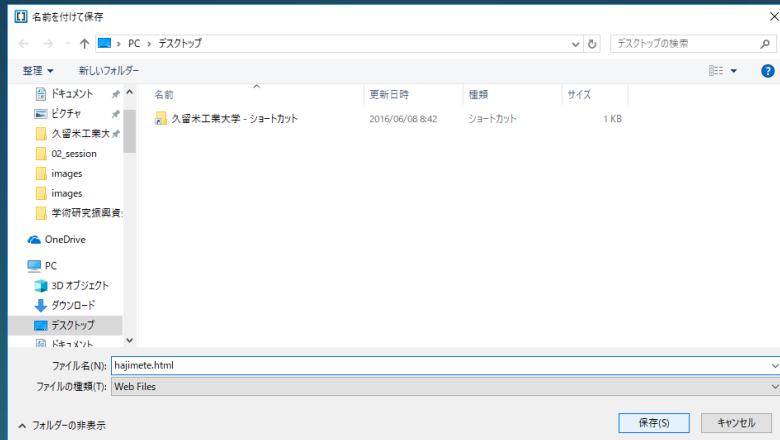
ここに文字を書き込む

HTMLファイルを作ろう

2. HTMLファイルとして一度保存(これで候補表示などが働くように)



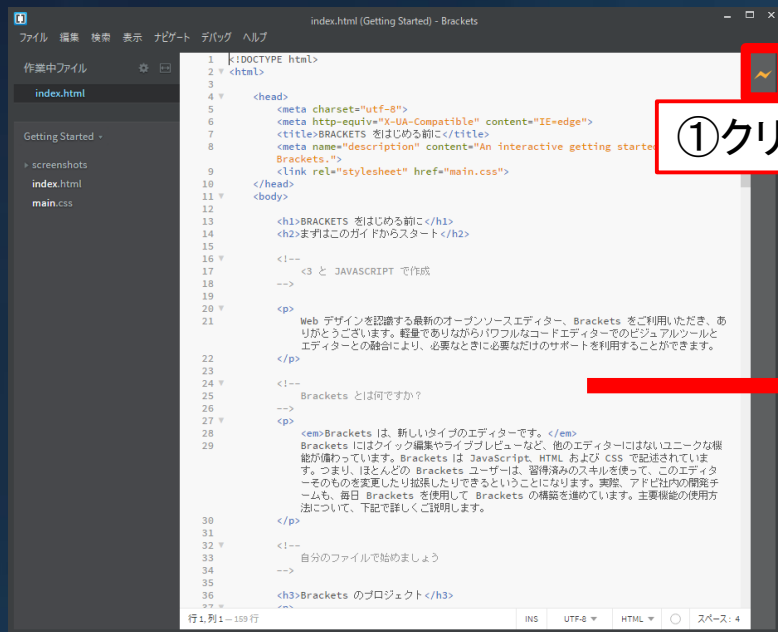
今回は **mySite** フォルダの中に
「**enshu02.html**」という名前で保存しよう



ライブプレビュー

3. 「ライブプレビュー」機能をオンにしよう

② ライブプレビュー用のChromeが起動



①クリック



③皆が書くHTMLを
Chromeが解釈した結果
をリアルタイム表示

小テスト

–Web技術の基本用語1–

タグの基本形態

タグの基本形態

- タグは基本的に半角英数字で書く
- <開始タグ> と </終了タグ> の間に内容を囲む

見出しを示すh1タグの場合の例：

<h1> アート </h1>

- 単体で用いる、終了タグが無いものもある

改行を示すbrタグの例：

実際にタグを書いていこう

-まずは2つの例外的なタグを覚えよう-

コメントタグ <!-- -->

- <!-- --> はコメントタグと呼ばれ、囲まれた部分はHTMLに影響を与えない

例 :

<!-- 何を書こうが自由 -->

重要な部分にはコメントを残す癖を付けていこう

HTMLのバージョンを表すタグ <!doctype html>

- ・HTMLには様々なバージョンがある
HTML5, HTML4.01, XHTMLなど・・・

書いていこう

```
<!doctype html>
```

```
...
```

以降(下)のHTML文書の
バージョンがHTML5であることを示す

レイアウトずれを防ぐ(互換モードでの起動を防ぐ)効果があるので、
最初に書いておこう

基本タグ

<html> </html>

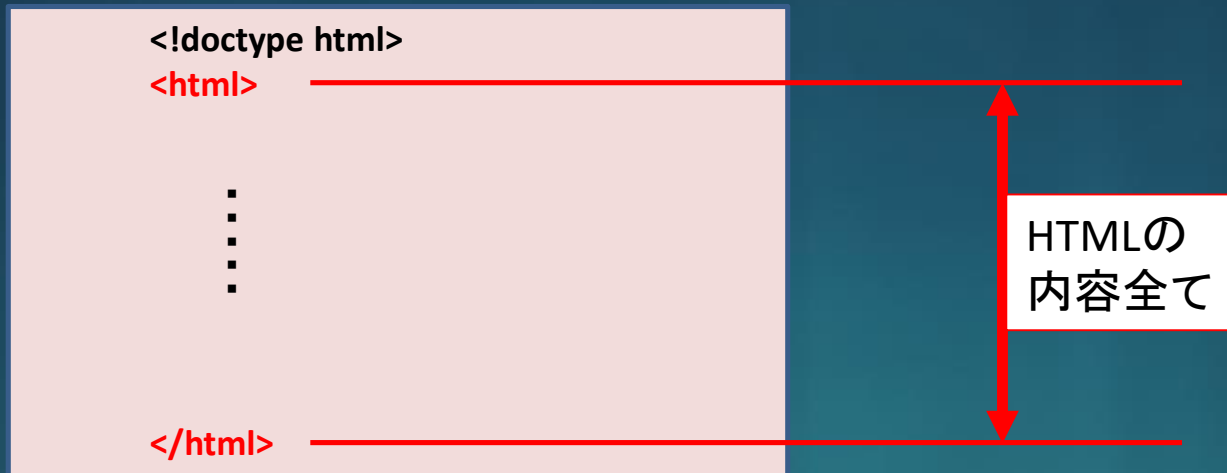
<head> </head>

<body> </body>

HTMLの基本タグ1: <html>~</html>

HTML文書の**開始と終了**を宣言する
(このタグで**囲まれた部分がHTML文書である**)

書いていこう



HTMLの基本タグ2: <head>～</head>

HTML文書の**基本情報**を定義する

(文書の**タイトル**や**文字コード**、**制作者情報**などをこの中に記述)

書いていこう

```
<!doctype html>
```

```
<html>
```

```
  <head>
```

```
  </head>
```

```
</html>
```

基本情報

HTMLの基本タグ3: <body>~</body>

HTML文書の**本文**を定義する
(ブラウザに表示される**コンテンツ**部分)

書いていこう

```
<!doctype html>
```

```
<html>
```

```
  <head>
```

```
  </head>
```

```
  <body>
```

```
  </body>
```

```
</html>
```

コンテンツ部分



ここに何か表示したければbody内に書きこむ

head内に書き込むタグ

<meta charset=“文字コード”>

<title></title>

head内に書くタグ1: <meta charset="文字コード名">

このHTML文書に**使われる文字コード**の定義、この場合**utf-8**
(**文字化けを防げる**のでとりあえず書いておこう)



Unicodeの一種

書いていこう(書き間違いに注意)

```
<!doctype html>
<html>
  <head>
    <meta charset="utf-8">
  </head>
  <body>

  </body>
</html>
```

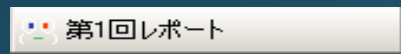
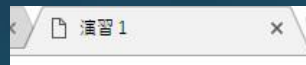
head内に書くタグ2: <title>~</title>

HTML文書にタイトルを付けるためのタグ

書いていこう

```
<!doctype html>
<html>
  <head>
    <meta charset="utf-8">
    <title>演習1</title>
  </head>
  <body>

  </body>
</html>
```



※ タイトルを設定しておくと、
ブラウザで読み込んだ時に、
タイトルバーにその文字列が表示される

body内に書き込むタグ(コンテンツとなる)

<h1></h1>

<p></p>

コンテンツタグ1: <h1>~</h1>

- 見出しを示す
- h1~h6まであり、数値が増えるほど小見出しになる

bodyタグの内部に書いていこう

```
<h1> h1見出し </h1>  
<h2> h2見出し </h2>  
<h3> h3見出し </h3>  
<h4> h4見出し </h4>  
<h5> h5見出し </h5>  
<h6> h6見出し </h6>
```

[備考]

> heading の頭文字から
> 前後が改行される

コンテンツタグ2: `<p>~</p>`

- 段落(文章のまとまり)を示す

bodyタグの内部に書いていこう

`<p>` 最初の段落です。 `</p>`

`<p>` 次の段落です。 `</p>`

`<p>` 最後の段落です。 `</p>`

[備考]

> `p` paragraph の頭文字から

> 前後が改行される

コンテンツタグ3: `img`タグ

—画像の表示—

Webページでの画像の利用

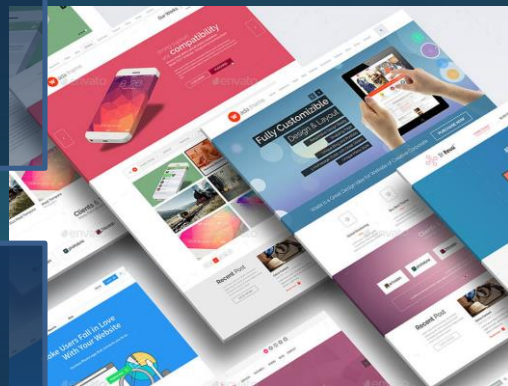
<メリット>

情報の幅が広がる: 写真・ロゴなど
表現力の向上: 単純に魅力的に

<デメリット>

データ容量の増加

→ アクセシビリティの低下



Webページ上で利用可能な画像ファイル形式

GIF (Graphics Interchange Format)

JPEG (Joint Photographic Experts Group)

PNG (Portable Network Graphics)

- 画素数が多いほど、きれいな写真だが、ファイルサイズが大きくなる
- 上記はすべて圧縮されたファイル形式である

GIF (Graphics Interchange Format)

- *Graphics Interchange Format* の略
- 最大256色
- 可逆圧縮のファイル形式
- イラスト, アイコンやロゴなどの表示に適している
- 基本的には静止画、アニメーション処理も可能
- 拡張子は.gif



JPEG (Joint Photographic Experts Group)

- Joint Photographic Experts Group の略
- フルカラーに対応、色数は24ビット 2^{24} 乗
- 非可逆圧縮で高圧縮率
- 色数の多い写真などの画像ファイル
- 拡張子は.jpgあるいは.jpeg



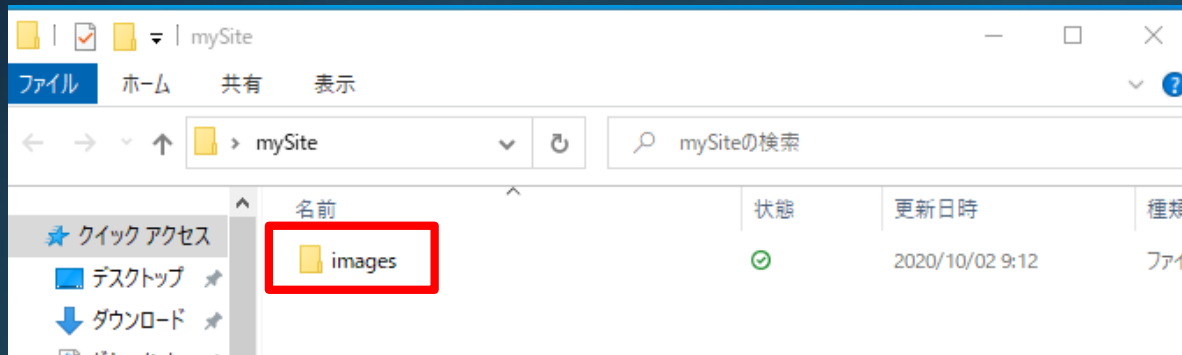
PNG (Portable Network Graphics)

- Portable Network Graphics Joint の略
- GIFの機能を拡張
- 色数は48ビットまで対応（フルカラー + 透明度）
- 可逆圧縮
- 拡張子は.png



画像を表示するタグの前に…

mySiteフォルダの中に、「images」フォルダを作ろう



画像ファイルはこの中に入れていきます

コンテンツタグ3:

- 画像ファイルを表示する
- 終了タグ無し

書式 :

```

```

> 代替テキストとは

画像が何らかの原因で表示できないときに、替わりに表示される文字

[備考]

> 画像は文字と同じ扱いで横並びで改行されないの
で、pタグとかで囲むのもアリ

コンテンツタグ3:

- 画像ファイルを表示する
- 終了タグ無し

書式 :

mySite > images フォルダの中に何かしら画像ファイルを入れてから、以下を書こう

<p>

</p>

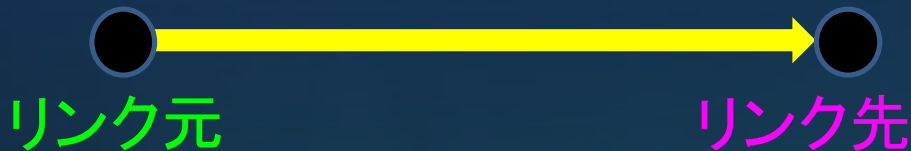
↑ この書き方は後の授業で詳しくやるが、これは**imagesフォルダの中の**画像ファイルを指定している

コンテンツタグ4:

- ハイパーリンク(他のファイルへのリンク)を設定する

書式 :

リンク元



> このaタグは以下のような順番で使おう

[備考]

- 1) pタグ(文章コンテンツ)や画像などをまずは置く
- 2) リンク元にしたい文字やimgタグをこのタグで囲む

コンテンツタグ4: ``

- ハイパーリンク(他のファイルへのリンク)を設定する

書式 :

`リンク元 `



以下を書いてみよう

```
<p>  
ホームページへの<a href="http://www.kurume-it.ac.jp/">リンク</a>  
</p>
```

課題1 10/9 授業前×切

今日は作るところまで

来週アップロードを一緒にやっていきます

課題1 : kaday1.htmlというWebページを作ろう



タイトル

大見出し

画像

mySiteフォルダの中に
「kaday1.html」という名前で作成しよう

小見出し

中見出し

本文はそれぞれ段落<p>タグで囲むことに注意

「こちら」に久留米工業大学HPへのリンク